

「学びの变革」指導展開例

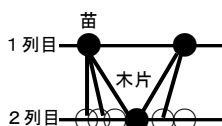
＜基本情報＞

- ◇教育課程 作業学習(農業)
- ◇学 年 中学部 第1・2・3学年 農業第3班(5名)
- ◇単元名 「秋野菜・花の栽培」
- ◇単元の目標
 - 働くことに喜びをもち、すすんで作業に取り組むことができる。
 - 作業学習を理解し、主体的に最後まで取り組むことができる。
 - 作業に使う道具を正しく安全に正しく扱い、自ら適切な管理や手入れを行うことができる。
 - 役割を理解し、仲間に働きかけながら協力して作業に取り組むことができる。
- ◇本時の目標
 - ・ 丁寧に白菜の苗を配置し、植えることができる。
 - ・ 苗植えの役割がわかり、協力して取り組むことができる。
- ◇生徒の実態 単一障害学級生徒縦割りグループ。第1学年2名、第2学年1名、第3学年2名。作業における基本的な態度(挨拶・報告・身だしなみ等)にはまだ課題がある集団。課題解決の場を設定すると、生徒自らアイデアを出し工夫する姿が見られる。ペア活動では、お互いに声を掛け合い協力しようとする意識をもちつつある。

＜学習過程(抜粋)＞

学習活動	指導上の留意点		
	A	D	全体
3 白菜の苗の配置について考える	○2つの白菜ペープサートを見せ比較させる。選ばせる。	○3つの長さの木片に長さを示して、比較して選ばせ、理由を述べさせる。	○白菜の実物及びペープサートを使いながら、白菜がぶつからないように、育つには、どのくらい間隔を開けたらよいか、考えさせていく。
4 白菜の苗の配置	○苗の位置がわかるように、生徒Dが割り箸で印を立てた場所に苗を置かせる。	○2列の苗を植える間隔をずらしながら、木片で測ることができる。 ○ <u>2列目のスタートは敢えて示さず、どこから植え始めたらよいか考えさせる。</u> ☆2列の苗を植える間隔をずらしながら、木片で測ることができたか。	○生徒A、Dのチームと生徒B、C、Eのチームに分かれ、畝を半分に分けて作業範囲をわかりやすくする。 ○苗を植えるラインに支柱を置き、長さを測る場所を明示する。

問題意識をもたせませす



1列目の配置を決めた後、生徒Aが2列目の植え始めを1列目の頭と揃えるように支柱を配置したのですが、生徒Dは1列目と2列目の白菜の距離が短くなることに気付きました。「どうしたら白菜が成長した時に狭くならないだろう」とつぶやきながら、指導者が予め準備しておいた植える間隔を測る木片を活用し、1列目と2列目の間隔を測ったり、1列目の2つの苗の位置との間隔を測ったりして、最善の場所を決めました。

生徒Aが2列目の支柱を1列目の支柱の頭と揃えてしまったことで、生徒Dが思っていた2列目の配置のイメージと違ったようである。「これでは白菜どうしが当たる。大きく育たない。」と気付いた生徒Dは、1列目で使った木片を持ち出し、1列目の隣り合う2つの苗との間隔を測り、三角形の間隔を作りながら一番良い(2列目を植える基準となる)場所を見つけることができた。そこからは、1列目と同様に2列目の支柱に沿って木片で間隔をとって植える場所を決めていくことができた。白菜を大きく育てるためには、列どうしもある程度の間隔が必要であることに気付く(問題意識)、どうしたら確保できるか試行錯誤(思考・判断・行動)してみても、解決(表現)することができた。